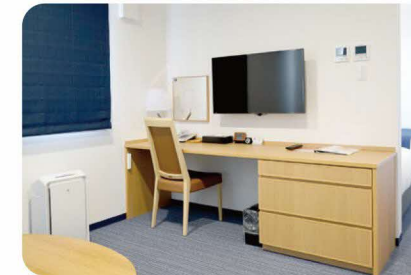


ホテルレウスアショロ

30室を擁するカジュアルモダンをイメージしたホテル
足寄産のカラマツ材を利用した、ぬくもりあふれる木造建築



問合せ先 <https://hotel-reus.com/>
TEL.0156-25-2111



地材地消の木造建築

創業者が持っているカラマツ林の樹齢が50年～60年になるので、その有効活用を考えていました。

以前の足寄町は旅館が4軒ほどしかなく、宿泊施設に戻ってから仕事をする環境も整っていなかったため、あまりビジネス向きではなかったんです。当社の社長は足寄町商工会の会長でもあったので、足寄町に泊まらず帯広などに流れてしまうようなせつかくの経済的機会の損失に懸念を持っており、元々この事業に興味があった社長が手を上げていよいよこのホテルを建てることになったというわけです。

当初はCLT※1を使用する工法を候補に選び、国の補助金活用や足寄町からの支援も検討しましたが、どうしてもコスト的に現実的ではないため断念することになりました。それでも、地元のカラマツ材を使って建設することの思いを設計者に相談したところ、「パワービルド工法※2」の提案を受けました。その工法は木造であっても2階建て3階建てが可能であり、従来の木材建築よりも3倍近い耐震強度がある上に、施工性も良いことが決め手となりました。さらに断熱材もウッドファイバー※3という木質繊維でできたものを使うことにより、一層地元産材の活用にご貢献できることがわかり、採用を決定しました。

※1 CLT…P26参照
※2 パワービルド工法 ※3 ウッドファイバー…ページ下、宮坂建設工業参照

デザインのコンセプト

あまり奥行きがない敷地なので、ある程度高さも抑えて効率的な設計にしました。「レウス」はアイヌ語で「泊まる」という意味があります。阿寒に近いことや、すぐそばにアイヌのいわれのある山もあるので、それに合わせたマークなども考えてデザインしました。



■パワービルド工法の採用

大工さんが釘と金物で接合していた部分をボルトで全部接合していく工法で、強度もありつつ組立も簡単です。ボルトの接合部分が見えずに木だけが見える仕上がりは木を見せるにはいい工法だと思います。木の暖かみ、ぬくもりを感じられるようにというご希望でしたが、ホテルという用途上、関係で内装制限がかなり、石膏ボードで囲った室内を作らなければならず、木造建築でありながら、思ったよりもあまり木が見えてこなかったのがちょっと残念です。

■ウッドファイバーの採用

普通、断熱材はグラスウールですが、今回はウッドファイバーを使用しました。木材が材料ながら、グラスウールよりも断熱効果があり、難燃性が高く耐火性能が良い、しかも厚さが100mmしかないのに調湿効果もあります。真冬には加温、真夏には除湿の面でも効果が見込まれます。



ホテルレウスアショロ
支配人
鎌水 浩二さん

宿泊者からは「お部屋に入ると木の心地よい香りがして落ち着く」、「木のぬくもりが温かい」という感想をいただいています。従業員も木が表面に見えなくても木の香りがすると感じています。私自身も木の温もりを肌で感じています。



このホテルでは、オリジナルのチーズケーキの製造・販売を行っておりまして、ゆくゆくはこのラウンジを利用してちょっとしたカフェスペースを設けるつもりです。木の香り漂うスペースを広く地元の皆さんにもご利用いただきたいと考えています。

木造建築の今後

民間の住宅には外装を板張りにするところが増えてきていますが、サイディングよりややコストが高く、メンテナンスがたいへんな面もあります。他にフローリングや羽目板に木を使う住宅もすごく増えています。弊社も53年ぶりに社屋を新たに移転して全面平屋の木造建築にしたのですが、社員もたいへん喜び、温もりのある建物で木造で良かったと思っています。十勝には木へのこだわりがある設計会社が多いので、今後は木造建築が増えていくのではないかと思います。耐久年数を考えるとRCのコンクリートということになるんでしょうけれども、防腐塗材にもいいものが出てきており、40、50年もの耐用年数を持つ木造建築もあります。また、木造のものを長く使いたいと、リフォームされる方もいらっしゃいます。そのようなお客さまの需要にもお応えしていきたいと思っています。



2021年春竣工の宮坂建設工業(株)本社

